

石井十次
没後100年
記念!

児童福祉事業のさきがけ
岡山孤児院(1887~1926年)の
全貌を明らかにする
機関誌および関連写真・映像資料を復刻!

【編集復刻版】史料・岡山孤児院

画像・映像編

機関誌編

全3巻

岡山孤児院 写真・映像資料

編・解説 三上邦彦・元村智明
A4判/上製(映像はDVD)
揃定価 6万円+税

六花出版

全5巻

岡山孤児院新報

編・解説 菊池義昭・細井勇
A4判/上製/総1,752頁
揃定価 12万5000円+税

【編集復刻版】史料・岡山孤児院
【機関誌編】『岡山孤児院新報』 【画像・映像編】『岡山孤児院 写真・映像資料』

刊行概要

体裁 A4判・上製 *【画像・映像編】第3巻のみDVD

揃定価 【機関誌編】『岡山孤児院新報』全5巻 125,000円+税(全2回配本)

【画像・映像編】『岡山孤児院 写真・映像資料』全3巻 60,000円+税(全1回配本)

●刊行にあたって 児嶋草次郎(石井記念友愛社理事長)

●編・解説 【機関誌編】菊池義昭(東洋大学教授) 細井勇(福岡県立大学教授)

【画像・映像編】三上邦彦(岩手県立大学教授) 元村智明(金城大学准教授)

●推薦 江草安彦(社会福祉法人旭川荘 名誉理事長)

室田保夫(関西学院大学教授)

野々村淑子(九州大学教授)



食堂にて



洗面の様子

画像・映像編
全1回配本

機関誌編

第2回配本

第1回配本

2014年6月刊◎定価50,000円+税 ISBN978-4-905421-57-3

第1巻 ●『岡山孤児院月報』第1号~第8号(八九三年八月~九四年五月)

『岡山基督教』第1号~第4号(二八九年九月~二月)

『明治二十八年岡山孤児院年報』(二八九年二月)

英文機関誌『ASYLUM RECORD』3冊(一九〇二年三月~〇三年二月)

『岡山孤児院新報』第1号~第27号(二八九年七月~九八年)

第2巻 ●『岡山孤児院新報』第28号~第62号(二八九九~一九〇一年)

2014年12月刊◎定価75,000円+税 ISBN978-4-905421-60-3

第3巻 ●『岡山孤児院新報』第63号~第98号(一九〇二~〇四年)

第4巻 ●『岡山孤児院新報』第99号~第122号(一九〇五~〇六年)

第5巻 ●『岡山孤児院新報』第123号~第148号(一九〇七~〇九年五月)

付録CD-ROM(総目次デジタルデータ)

2015年6月刊◎定価90,000円+税 ISBN978-4-905421-64-1

第1巻 ●『岡山孤児院 写真アルバム』(画像)(一九〇四~一四年)

第2巻 ●『岡山孤児院 写真画・記念写真帳』(画像)(二八八八~一九二三年)

付録DVD(第1巻・第2巻の画像デジタルデータ)

第3巻 ●『明治時代の孤児院に於ける生活記録』(一九〇五~一〇年頃の記録)(映像:24.50")*

表示価格はすべて税別。



石井十次
(1865-1914)



六花出版 ①101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-42 電話 03-3293-8787 ファクシミリ 03-3293-8788

岡山

山孤児院は、一八八七年、基督教を信仰する医学生・石井十次が、貧窮する女性から子どもを預かったことから始まった、近代における草分けの児童養護事業である。

すべての困窮する子どもたちを引き受け、育てることをこころざし、一時期は二二〇〇人もの子どもが生活した。

農村の荒廃や地震などの自然災害によって、生きるすべを失った困窮者があふれていた時代、単に子どもを「救済」するだけでなく、十分に食べさせ、一人ひとりに向き合い、家族的な関係の中で育てることをめざし、成人後の暮らしまで考えて展開された岡山孤児院の事業は、現在の子どもの貧困問題・教育問題を考える上でも、大きな示唆をもつ。

本資料集成は、「機関誌編」として、一八九六年に創刊された孤児院の機関誌『岡山孤児院新報』全号と、その前身誌にあたる『岡山孤児院月報』『岡山基督教』、そして『岡山孤児院年報』、英文の『Asylum Record』誌を復刻し、岡山孤児院という奇跡ともいえる大事業の足跡を辿る。

さらに「画像・映像編」として、子どもたちがどのように暮らし、学び、そして音楽・幻燈隊として遠く台北や旅順にまで出かけたか、その様子を撮影した写真・アルバムを復刻すると同時に画像データを付した。また一九〇〇年代という時期に撮影された動画もデジタル映像としてDVDに収録、解説を付して復刻刊行する。

社会事業史・教育史のみならず、現代の子どもと貧困、災害の問題、親へのケアなどについて考えるすべての人に提供するものである。

(六花出版編集部)

関連年表

一八六五	石井十次、宮崎県児湯郡に生まれる
一八六九	・日田養育院創立(大分県)
一八七九	・福田会育児院創立(東京)
一八八二	・岡山県甲種医学学校に入学
一八八四	・岡山県基督教会で洗礼を受ける
一八八七	・岡山市の三友寺に孤児院教育会を設置(岡山孤児院の創立)
一八八八	・「権櫻軒の小学校」と称して路上生活児童二〇余名に孤児院の軒下で授業を行う
一八八九	・第三高等中学校医学部を退学
一八九一	・濃尾大地震・名古屋市中に震災孤児院を開設
一八九二	・上毛孤児院創立(群馬県前橋市)
一八九三	・震災孤児院を岡山孤児院本院に合併・「岡山孤児院月報」創刊
一八九四	・石井の郷里・宮崎県茶臼原へ移住のため、開拓を開始・「岡山基督教」創刊
一八九六	・明治三陸大津波
一八九七	・「岡山孤児院新報」第1号発刊・東京孤児院創立
一八九八	・「幼児は遊ばせ、子どもは学ばせ、青年は働かせよ」ことを理念とする「時代教育法」を案出
一八九九	・私立岡山孤児院尋常高等小学校校設立
一九〇〇	・院児による音楽・幻燈隊を編成、尾道で初公演。以後全国各地、海外まで遠征(一九〇八年)
一九〇二	・感化法。行旅病人及行旅死亡人取扱法。精神病者監護法・賛助会員一万人突破
一九〇四	・大阪出張所を設置(一九〇六年)
一九〇五	・「孤児無制限収容」を発表・東北地方冷害による大凶作
一九〇六	・仙台・福島・岩手に救済事業所を設立。計八二五名の被害児童を岡山に受け入れる
一九〇七	・岡山孤児院の収容数が二二〇〇人を超える
一九〇八	・全面的に委託制度(里預制)を導入
一九〇九	・東京事務所と大阪事務所を開設
一九一〇	・「家族制度」「満腹主義」「宗教教育」などの方針を記した「岡山孤児院十二則」を発表
一九一一	・「親は働き、子は学べ、三代目には小作人が地主となる」という考えに基づく「三代教育論」を発表
一九一二	・大阪事務所で「貧児保育」「貧児の夜学校」「職業紹介」を企画し、愛媛橋夜学校、日本橋同情館を設立
一九一三	・「岡山孤児院新報」一四八号で終刊
一九一四	・院児、職員、茶臼原移住を完了(岡山には里子のみ残る)
一九一五	・私立茶臼原尋常小学校を設立。「茶臼原憲法」制定
一九一六	・石井十次、初孫児嶋嶋一郎誕生の報を聞いたのち死去
一九一七	・支援者・大原孫三郎が大阪に財団法人石井記念愛染園を設立。愛染橋保育所・夜学校を引き継ぎ救済事業研究室を付設(後の大原社会問題研究所)
一九二二	・少年法
一九二六	・岡山孤児院、茶臼原孤児院が活動終了
一九二九	・救護法
一九三三	・児童虐待防止法/少年救護法
一九四五	・敗戦
一九四五	・児嶋嶋一郎、戦争被災児救済を目的として石井記念愛染園を茶臼原に設立、活動を再開。

岡山孤児院新報

明治二十九年
七月二十日発行
毎月一回

天下の有志諸君に訴ふ

皆様の御助けで院役者諸君の御盡力によつてわが岡山孤児院も段々好都合に相成り近來は各實業部の収入一日平均拾圓位になりましたから食ふだけの収入は自由になりました併しまだ十才以下の兒女が五十人程有りますから衣物まで着ることはできません

願くは天下の有志諸君が同胞相愛の情に勵まされ天災への御恩報として各應分の助けを與へるこの可憐の父母なき孤兒等が衣食住に不自由なく月日を楽しく送ることの出来る様なし玉はんことを乞ふ

塾舎建築費に就て

二十八年年報を出版するや本院は塾舎工場建築費として金壹萬圓を募集せりこれに對して在米カナダバンクーバー田村新吉君は金百圓を

米國ミヌーデ氏は米貨貳百圓を全米セボリングス氏は米貨百圓を

惠送せらるる其他諸方より惠送せられたる金額を合し今日まで集りしもの凡そ貳千圓に達せり願くは全世界の兄弟諸君が各自應分の力を投じ天下無告の孤兒のために適當なる塾舎を興へ可憐なる孤兒をして「わが父の家」に住居多しとの主イエスキリストの言葉を實際に味ふことの出来る様ならしめ玉へ

これ天下の事業なり

これ天下の事業なり、吾輩一人の事業にあらずるなり、これ吾人が此度岡山孤児院新報を發行せし所以なり、願くは天下有志の諸君本院の事につきて質問或は忠告なし被下度とあらば遠慮なく質問し忠告なし被下度し爾來吾輩は新報上に於て或は手紙を以て諸君の質問に答へ且つ出来得る文心力を盡して諸君の指導に従はんことを欲す

岡山孤児院の概況

吾人は本年二月昨年々報を發し同院の概況を報告する處ありき、爾來半歳未だ著しき異動を生ぜず、只二三院役者の出入、孤兒數名の増加、各實業部の進歩、及孤兒に對して開放主義を取るに至りたるが如きは即ち其主なる件なるべし、然れども本紙の讀者にして未だ該年報に接せざる人ある可ければ吾人は再び茲に其概況を記せんことを欲す、

活版部 當部は林崎君其主任にして二十餘名の男兒及二三の岡山英學校生徒此部で勤けり、昨年末に於ける當部の純益収入は一日僅に二圓内外の平均に過ぎざりしを今日に於ては殆んど之に倍し一日の収入五圓内外の平均を得るに至れり、尙ほ當部は遠からざる内東京にも出張するの計畫ありと云ふ、

縫製部 當部昨年末迄は工場を有し白木綿及シルを織り居たりしが、爾後更に一新工場を建築し紋シルを織るに至れり、主任は河本茂四郎君にして孤女三十七名之に屬す、當部創始以來僅に二年餘未だ見るに足るものなしと雖も其將來を望まされけり、

木工部 是は麥崎真田紐製造部を云ふなり、備中某氏の依託により之を賃製するものにして、兒童三十七名此の業に従事す、一日の賃金合計して大約二圓とす、

マツチ部 當部も同じく當地某社の委託にかゝるものにして最少年の兒童六十余名其業を取る、一日賃金の收得合計二圓を下るは稀なりとす、

農業部 一昨年春始めて當部を日向國兒湯部の茶臼原に設けり、孤兒院年長の男兒數十名茲に移住せしが、昨年夏期大困難の際に其大半は出て、近村の農家に奉公するに至れり、目下耕作の土地大約十町許にして桑畑三反なり毎年陸稻甘藷を主たる植付とす、行々は皆桑畑と爲す積りなり、

理髮部 當部は嘗て之を設け昨年一旦之を廢止せしが先月に至り再び之を開き二人の孤兒をして從



君吉龜邊渡故

雑報

●宗村製菓君 曩に吾孤児院を辭し養蠶教授の爲め日向佐土原に赴きたる宗君は、去る六月三十日再び本院に來る、同君は頗る御事に巧なるの人、事せしむ。

●學校 男女の兒童十才に達するは就學せしむるものなり、其初は其母の大部を其授業に費せしが近來は方針を労働教育主義に取り置はれて夜のみ學ぶ事となり、

●其他 朝は五時に起床し晩は九時に就床す、毎朝六時より禮拜の集會を行ひ、七時より労働に就き午後五時或は六時に終る、毎週土曜日は男兒演説會の催しありて頗る盛なり、

●君去て以來孤児院賑舞社會は寂寥を極めたり、思ふに是より復其盛なるを見るるべし。

●音樂師招聘 吾孤児院には追々暑氣に向ひ健康上殊に注意すべき時節となりたれば晝間の労働により疲勞も強かるべきにつき此夏期中は規定の夜學を休み音樂を學ばしむるととなり、神戸の音樂師三々種百氏を招聘する等なり。

●横井峰夫君 昨年三月廿一日本院を退院せし松平慶猷(舊横井峰夫君)は臺北縣廳給仕を奉職(月俸九圓)し知事橋本文藏氏宅に住居せらるるよし本月九日報恩の萬一なりとて金拾圓を送られたり

●孤兒年齡別 今當院現在兒の年齡を區別すれば略左の如し但昨年十二月の調査にして普通の數へ年に從ふ

年	男	女	計
六	二	二	四
七	一	一	二
八	一	一	二
九	一	一	二
十	一	一	二
十一	一	一	二
十二	一	一	二
十三	一	一	二
十四	一	一	二
十五	一	一	二
十六	一	一	二
十七	一	一	二
十八	一	一	二
十九	一	一	二
二十	一	一	二
二十一	一	一	二
二十二	一	一	二
二十三	一	一	二
二十四	一	一	二
二十五	一	一	二
二十六	一	一	二
二十七	一	一	二
二十八	一	一	二
二十九	一	一	二
三十	一	一	二

●又現在兒の原籍を縣別にすれば左の如し

岡山縣	岐阜縣	兵庫縣	廣島縣	愛媛縣	香川縣	徳島縣	愛知縣	京都府	大阪府	山口縣	山形縣	宮崎縣	福岡縣	熊本縣	鹿児島縣	大分縣	新瀉縣
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

●河本茂四郎君 我機業部主任者たる河本茂四郎氏去る十三日機業視察の爲め越前福井へ向け出發せられたり

●祈禱の應驗 去月二十八日晩女子部部長相談會に於て十一人の伍長等は目下貧乏の候終日平にひたされて工場より歸るも一枚の貨幣なき窮乏のために連夜祈禱會を開くことを相談し二十九日三十日七月一日と連夜熱心に祈り求めしに天に在す父様はその孤兒等の祈に耳を傾け給ひ今日は(七月二日)上道郡佐々木村大西まつと言ふ未信者の反動者より本綿織貳段を送らしめ玉ひ一同神恵の賜かなるに感じ感謝會を開けりニリヤ曰くわが神ニホハは活くと眞かな

●孤兒院の食物 飯は麥と米と半分づゝにして一日の食代は一人につき五厘(但し薪と醬油とは除く)この五厘さへ實業部の収入少なきときは二厘或は三厘に節減せらるるかくの如き食物にあて一日平均六錢位かゝります當時は各實業部よりの収入によつて食ふだけはふかふかといふ様になりしを減した、この半麥飯を食する様になりて病人は著しく減し殊に脚氣病の如きは一人もなく、

●此の半麥飯を食する様になりて病人は著しく減し殊に脚氣病の如きは一人もなく、

●此の半麥飯を食する様になりて病人は著しく減し殊に脚氣病の如きは一人もなく、

●此の半麥飯を食する様になりて病人は著しく減し殊に脚氣病の如きは一人もなく、

キリスト教社会事業の源泉

江草安彦

今年は、石井十次没後一〇〇年にあたります。この時に石井十次関連の出版物が刊行されることは大きな意味があります。この出版物により、石井十次をより身近に感じることができることでしょう。

石井十次は宮崎県に生まれ岡山医学院（岡山大学医学部の前身）に入学をしました。やがて岡山孤児院を設立し、倉敷の実業家大原孫三郎の大きな支援を得て「神のための事業」を情熱的に展開し、「孤児の父」と言われる活動をしています。やがて岡山だけでなく宮崎県でも理想を実現するためにさまざまな取り組みをすすめました。このことは『岡山孤児

院及分院 茶臼原孤児院之過去及現在』に明らかにされています。感慨深いものがあります。

岡山医学院の同級生には、矢野恒太（日本の社会保険の体系化をはじめた第一生命保険の創立者）もあり、お互いにすぐれた学友が刺激しあったことでしょう。このほか同時期に岡山では少年非行問題の先覚者留岡幸助、日本救世軍の創設者である山室軍平とも交友を深めていたようです。わが国の社会福祉の曙とも言えます。これらの人々は深い信仰の人であったことを忘れてはいけません。

（えぐさ・やすひこ 社会福祉法人旭川荘 名誉理事長）

推薦
します

文字と写真・映像から 孤児（院）の歴史をよむ

室田保夫

石井十次の畢生の事業と称せるものは、岡山孤児院の施設運営であった。その生涯は岡山孤児院と不即不離の關係を持ち、孤児院の歴史は孤児たちの歴史でもある。

政治や経済、教育、外交等々が中心である一般の歴史において社会福祉の歴史は主流ではない。貧困、家庭崩壊、災害、戦争といった背景によって孤児が生まれ、そして彼らがいかなる人生を送ったかといったことは、歴史の傍流から全く疎外された事象である。

このたび、六花出版より『岡山孤児院新報』と岡山孤児院に関する多くの『写真帳』そして映像が復刻されるという、まことに慶賀に堪えない。歴史には書かれる歴史と書かれざる歴史とがある。社会福祉の対象となる歴史は後者が圧倒的に多い。したがって『岡山孤児院新報』に掲載された内容は往々に

して多くの人が見逃していく歴史事象である。しかし、そこにはかけがえのない一人ひとりの人生が存している。我々はこの事実を理解し、光をあてていく必要がある。

『岡山孤児院新報』が文字で残された記録であるとするなら、多くの『写真帳』や映像は視覚に訴えた記録である。石井は福祉の施設に外国から幻灯機や活動写真機をいち早く取り入れ記録した人物であり、また福祉の世界を視覚に訴えたジャーナリストでもあった。有名な八百数十人の東北の孤児や貧困児を含めた一同に映した写真等には石井独特の意匠がある。いわば後世に生きる我々に対して明確な記憶を意識的に植え付けたとも解せる。文字や写真から何を讀みとるか。個々の人間を心に留めるという責務が今を生きる我々には課せられている。

（むろた・やすお 関西学院大学教授）

「子どもの貧困」の歴史研究を さらに深めるために

野々村淑子

現在、様々な研究領域で「生存」「貧困」「福祉」をめぐる問いが課題となっている。明治期日本の代表的な慈善事業、岡山孤児院もまた、社会変容のなかでいわゆる貧困児、孤児、棄児、浮浪児などのいのちへのまなざしが問われるなかで成立し、その後、濃尾大地震を受け、事業を展開した。

本資料集成に収録された『岡山孤児院月報』等報告類は、岡山孤児院が他の孤児院に先駆け着手した情報発信の媒体である。事業内容や寄付者名簿などのほか、孤児の救済経緯、入院後の生活状況などが記録され、事業や孤児の処遇とともに、その媒体を通じた広報手法の歴史的解明にも貴重な史料である。「写真・映像資料」もまた、当時の孤児院での暮らしや教育のありようと、社会に発信した情報

戦略に迫る上で非常に興味深い。

近代国家は、人々の、とりわけて貧しい子どもの生存とその後の成長と社会への送り出し、つまり労働と生活への関心を強め、同時にその整備を進めた。石井十次というカリスマ的創始者の思想と行動により語られることの多い岡山孤児院で行われた救済は、そのような流れの中でどのような位置にあるのか。例えば、里預け慣習や院での養育方法等、近代家族の価値観が新中間層に浸透する以前の、家族的養育への関心が示すものは何か等、さまざまな問いに、この豊かな史料群はどのように語ってくれるだろうか。より広い読み手を可能とするこの刊行は、さらにその歴史研究の幅と深みを保証するものとなるだろう。

（ののむら・としこ 九州大学教授）



茶臼原孤児院松林学校



東北から来た子どもたち。襟に名前などが書かれた布が縫い付けられている

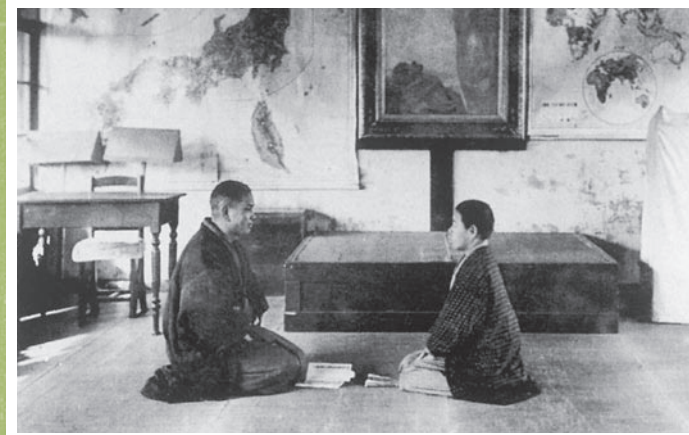


- 第2回配本
第3巻～第5巻
本体65,000円＋税
〈2012年6月刊行〉
ISBN978-4-905421-13-9
- 第1回配本
第1巻～第2巻・付録DVD
本体45,000円＋税
〈2011年12月刊行〉
ISBN978-4-905421-09-2
- 第2回配本
第1巻～第4巻
本体64,000円＋税
〈2013年12月刊行〉
ISBN978-4-905421-41-2
- 第3回配本
第8巻～第10巻
本体75,000円＋税
〈2014年12月刊行〉
ISBN978-4-905421-50-4
- 推薦
室田保夫（関西学院大学）
汐見稔幸（白梅学園大学）
藤岡一雄（元共愛学園中学・高等学校）
松本園子（白梅学園大学子ども学部）
- 編・解説
宇都榮子（専修大学教授）
細谷啓介（上毛愛隣社理事長）
- 揃定価
110,000円＋税
- B5判・A4判（第5巻のみ）・上製・2,042ページ

「西の岡山孤児院、東の上毛孤児院」並び称された上毛孤児院（群馬県）は、災害や凶作、貧窮、障害によって困窮に陥った保護者のいない子どもたちを守り育てた戦前期児童養護施設の草分けである。

機関誌『孤児の友』『上毛孤児院月報』及び関係資料を網羅的に収集し編集復刻。付録として幻灯用ガラス原板の画像データ208点をDVDに収録した。

編集復刻版『上毛孤児院関係資料集成』 全5巻＋付録DVD1枚



石井十次と対座する子ども。「談話教育」の実践



富山での「岡山孤児院慈善音楽会」



台北での音楽隊



食事風景



評議員。前列左・大原孫三郎、右・石井十次



里子大会



愛染橋保育所／夜学校（大阪支部）

編集復刻版『戦後初期人身売買／子ども労働問題 資料集成』全10巻

かつて帝国主義戦争遂行のため男たちの慰安に使用され、あるいは年季奉公や勤労動員という名で安い労働力として搾取されてきた、女性たち子どもたちは、敗戦後も生活困窮によって奴隷的労働を強制された。

本編集復刻版は、第Ⅰ部 人身売買編では女性や子どもの人身売買に関する雑誌記事や公文書資料を含む一九四五年より六〇年頃までの貴重資料を収録し、第Ⅱ部 子ども労働編では労働と呼ばれた子ども労働の実態を明らかにすると同時に不当労働や脱法と呼べるような年少労働の問題を示すパンフレットや書籍の資料を収録した。児童福祉史・児童教育史・女性史のみならず労働史・占領期研究等、人権の問題に取り組むすべての人々・研究機関に呈するものである。

- A5判（第1巻～第6巻）・A4判（第7巻～第10巻）・上製・約4,000ページ
- 揃定価
196,000円＋税（全3回配本）
- 編・解説
藤野豊（敬和学園大学）… 人身売買資料
石原剛志（静岡大学）… 子ども労働資料
- 推薦
逸見勝亮（北海道大学）
角田由紀子（弁護士）
岩田正美（日本女子大学）
増山均（早稲田大学）
- 第1回配本
第1巻～第4巻
本体64,000円＋税
〈2013年12月刊行〉
ISBN978-4-905421-41-2
- 第2回配本
第5巻～第7巻
本体57,000円＋税
〈2014年6月刊行〉
ISBN978-4-905421-46-7
- 第3回配本
第8巻～第10巻
本体75,000円＋税
〈2014年12月刊行〉
ISBN978-4-905421-50-4

